

特別活動

1. 特別活動におけるOHPの活用

「特別活動」の領域では、各教科や道徳と比して、OHPの活用については未開発の部分が多いが、積極的に利用することによって、多様な活用場面が考えられる。

学級指導において、1枚のTPが、児童生徒の解決意欲をもりあげ、共同思考を深め、一人一人が自分のあり方を真剣に考え、実践への意欲化がはかられることは、よく経験することである。また、遠足の事前指導にあたって、目的地の絵地図をスクリーンに大写しすると、児童はいつせいに地図にひきつけられる。これによって、道順や見学場所を容易に理解させることができるし、教師の实地踏査の時の写真TPなどを用意しておけば、見学するものに対する事前研究の意欲を喚起することもできる。

学芸発表会などにおいても、幕間を利用して劇の出演者の紹介やあらすじの解説などにOHPの活用を工夫していけば、ともすると平板になりがちなものに対して、変化や色どりを加えることができる。

さらに、交通安全の指導にあたって、児童生徒に直接体験させることが不可能な場面を、TPの作成を工夫することによって間接的に経験させ、理解を深めていくことができるようになってくる。

このように、OHPの活用場面は、特別活動の広い範囲にわたって考えることができる。

2. 指導場面に即したOHPの活用例

(1) 学級会や各種委員会などでの会議記録のための活用例

〔利用の状況〕



これらの会議では、普通、2名の書記が記録を分担する。ひとりが黒板に、他のひとりが会議の記録簿に記入するという形ですめられる。

板書をするものは、ほとんど立ったままで、話し合いが長くなったり、議論が錯そうしてくると、幾度も消したり書き直したりする必要がおきてくる。

そこで、OHPに「ロールシート」を取りつけ、そこに書かせるようにする。

この場合、書き入れる児童生徒の目を保護するために、「減光装置」を働かせるか、直射光を弱めるために、「カラーシート」「カラーボード」「方眼シート」のいずれかを、ロールシートの下敷きとしてはさんで置くようにするとよい。

このようにすると、書きながらスクリーンや黒板に投映することができ、議論がもつれたりしたときも、ロールシートを前にもどし